2027年３月期第２四半期
決算説明会資料

アドバネクス

2026年11月18日

本資料は2026年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. オープニング

2. 2027年3月期第２四半期 連結業績概要

3. 2027年3月期 連結業績予想

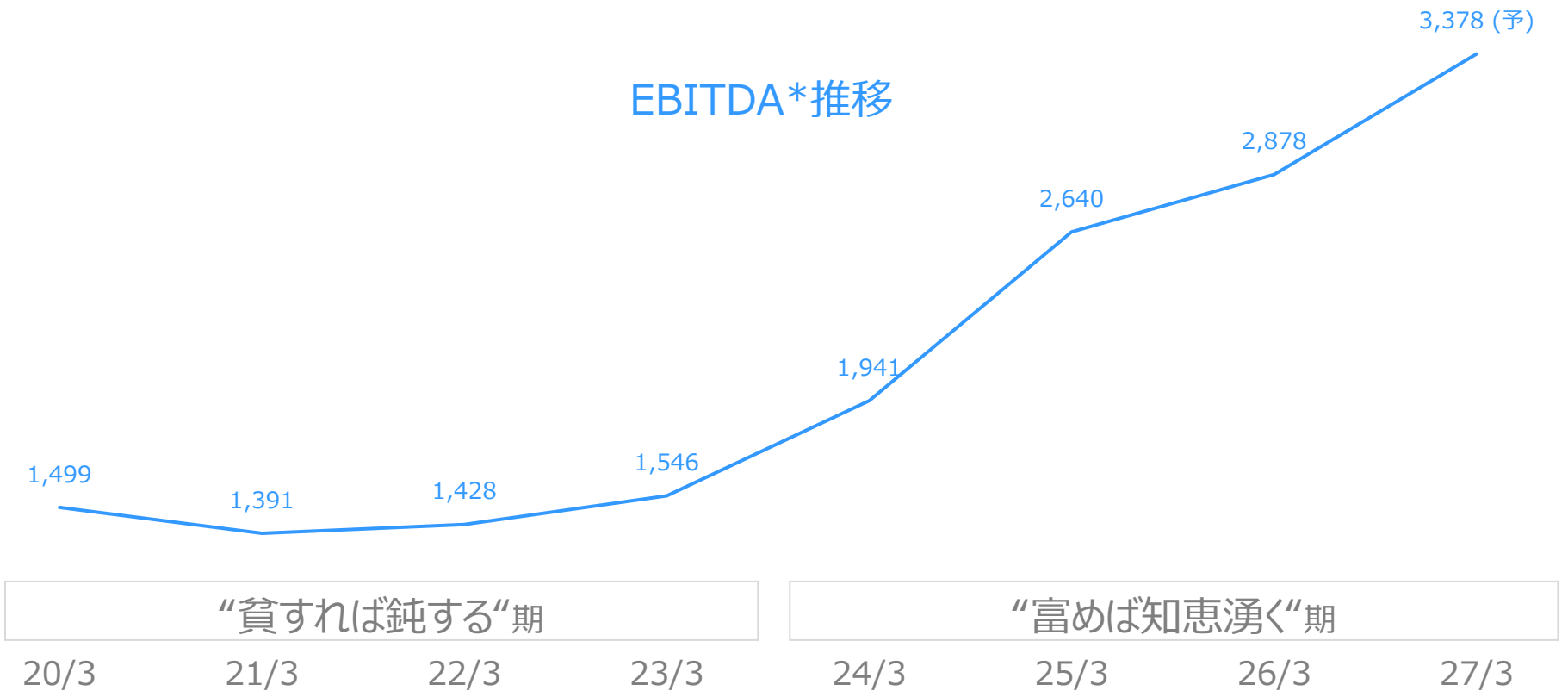
4. 中期経営計画

- 4-1. 進捗状況
- 4-2. 注力市場（医療、航空機）
- 4-3. 構造改革

5. トピックス、まとめ

今後のキャッシュフローの見通しがポジティブになったことで長期的・戦略的な視点で手が打てるように

（百万円）



*営業利益＋減価償却

経営判断の自由度が向上

	“貧すれば鈍する“期	“富めば知恵湧く“期
①投資	・消極的/ディフェンシブ ・最低限の投資/メンテナンス ・老朽機の延命 ・後発開発（受注が決まらないと開発しない）	・積極的/プロアクティブ ・技術開発 -加工技術開発（変則ｳｪｰﾌﾞｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ、高速ｺｲﾙｽﾚｯﾄﾞなど） -規格品開発（アイサートなど） -材料開発（異形線加工など） ・長期投資計画（設備投資室設立など） ・最新鋭機への入れ替え ・開発/試作専用機の増強
②人材	・短期的/対処的 ・欠員の補充	・長期的/戦略的 ・ハイクラス人材の登用 -IT/技術/グローバル/営業 ・グローバル事業本部の増強・増員 -営業/品質/生産支援
③経費	・削減/抑制 ・出張の抑制（コロナ要因含む）	・活性/積極 ・海外展示会（医療・航空等）出展・参加増 ・技術交流会 ・品質・生産性向上に向けた海外子会社出張支援増

1. オープニング
2. 2027年3月期第２四半期 連結業績概要
3. 2027年3月期 連結業績予想
4. 中期経営計画
4-1. 進捗状況
4-2. 注力市場（医療、航空機）
4-3. 構造改革
5. トピックス、まとめ

2. 2027年3月期第２四半期連結業績概要

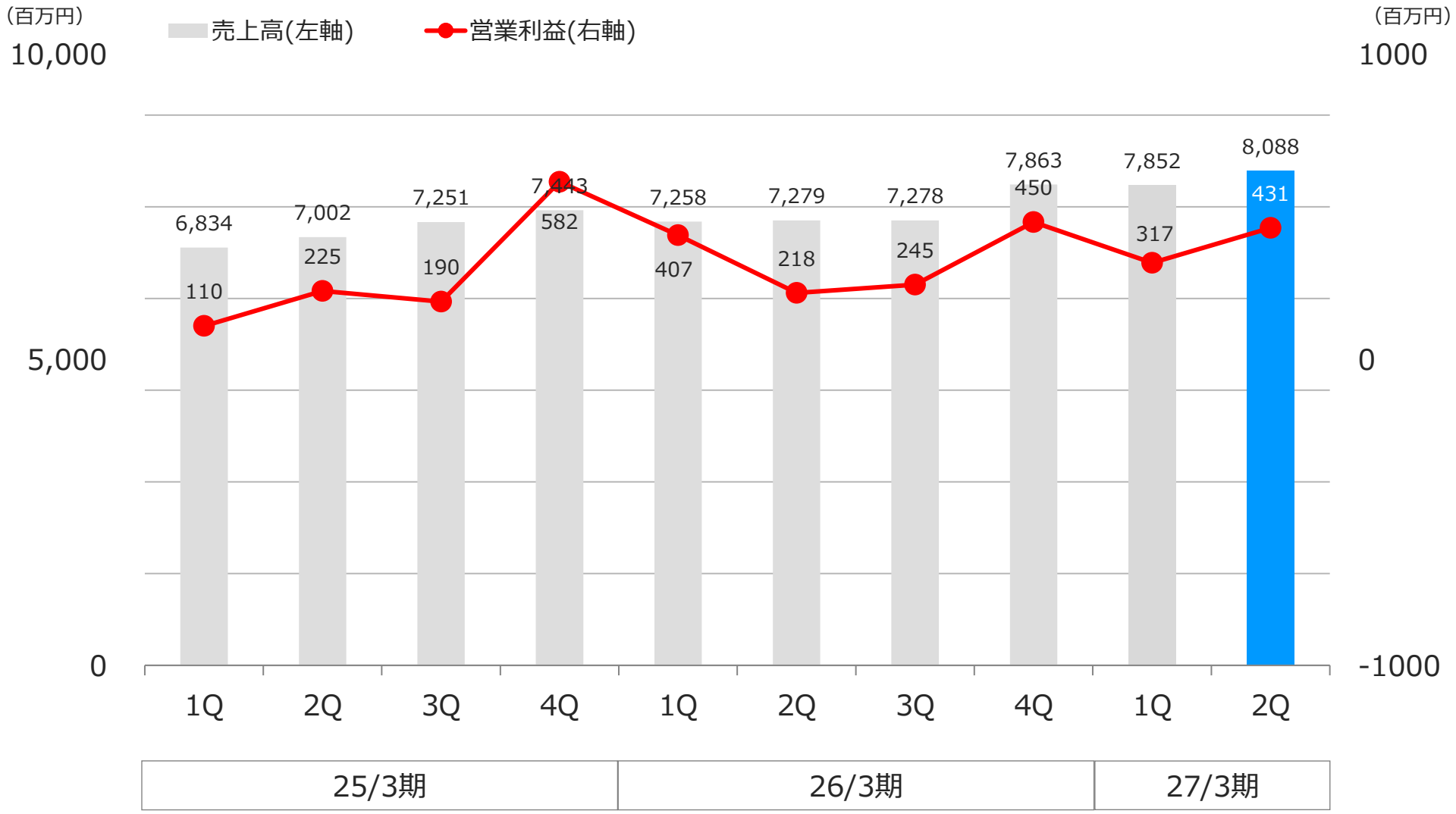
（単位：百万円）

	2026/3期 2Q累計	2027/3期 2Q累計	前期比増減額	前期比増減率
売上高	14,537	15,941	+1,403	+9.7%
営業利益	626	748	+122	+19.5%
営業利益率	4.3%	4.7%	-	-
経常利益	565	419	△146	△25.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	386	1,504	+1,118	+289.5%

- 引き続き自動車・医療・航空機向けが好調に推移したことから、売上高は前年同期比増収
- 原油価格・原材料費の上昇や米国関税の影響は継続するも、営業利益は前年同期比増益
- 保有資産・負債の評価替えにより為替差損178百万円を計上（前年同期は48百万円の差益）
- シンガポール工場の譲渡等による特別利益1,393百万円を計上（2026年8月適時開示）

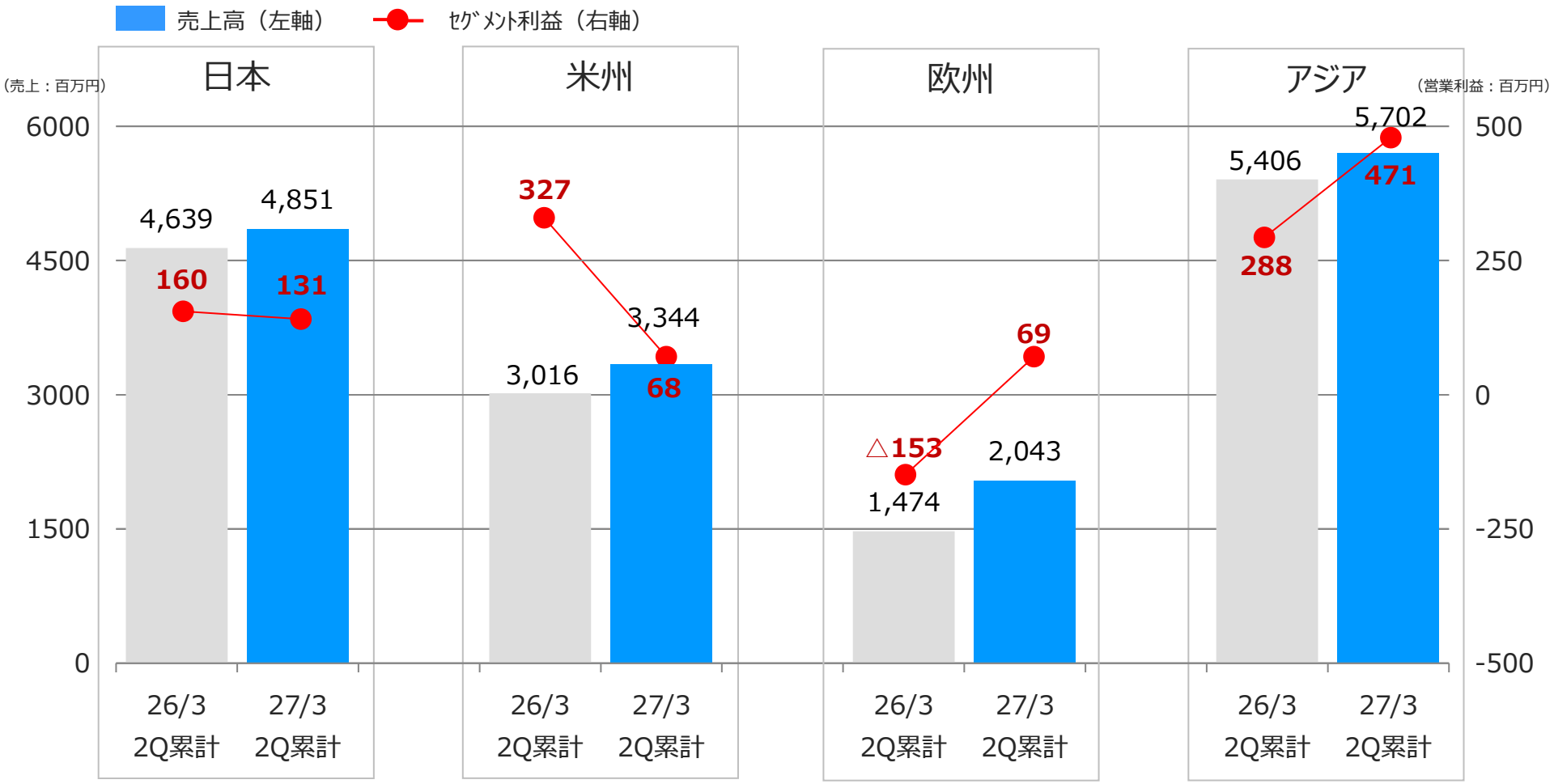
26年3月2Q期レート：　1 US$＝146.6円
27年3月2Q期レート：　1 US$＝160.0円　2026年3月-2026年9月毎月月末TTMレートの平均

2. 連結売上高・営業利益推移



26年3月2Q期レート： 1 US$＝146.6円
27年3月2Q期レート： 1 US$＝160.0円 2026年3月-2026年9月毎月月末TTMレートの平均

2． 所在地別売上高・セグメント利益



＋ 自動車・精密向け売上増
－ 原材料費やツール類の高騰

＋ 医療向け売上増
－ メキシコペソ高によるドル建て収入目減り
－ 米関税（輸入金属材に課税）

＋ 医療・航空機向け売上増
－ 米関税による輸送調整

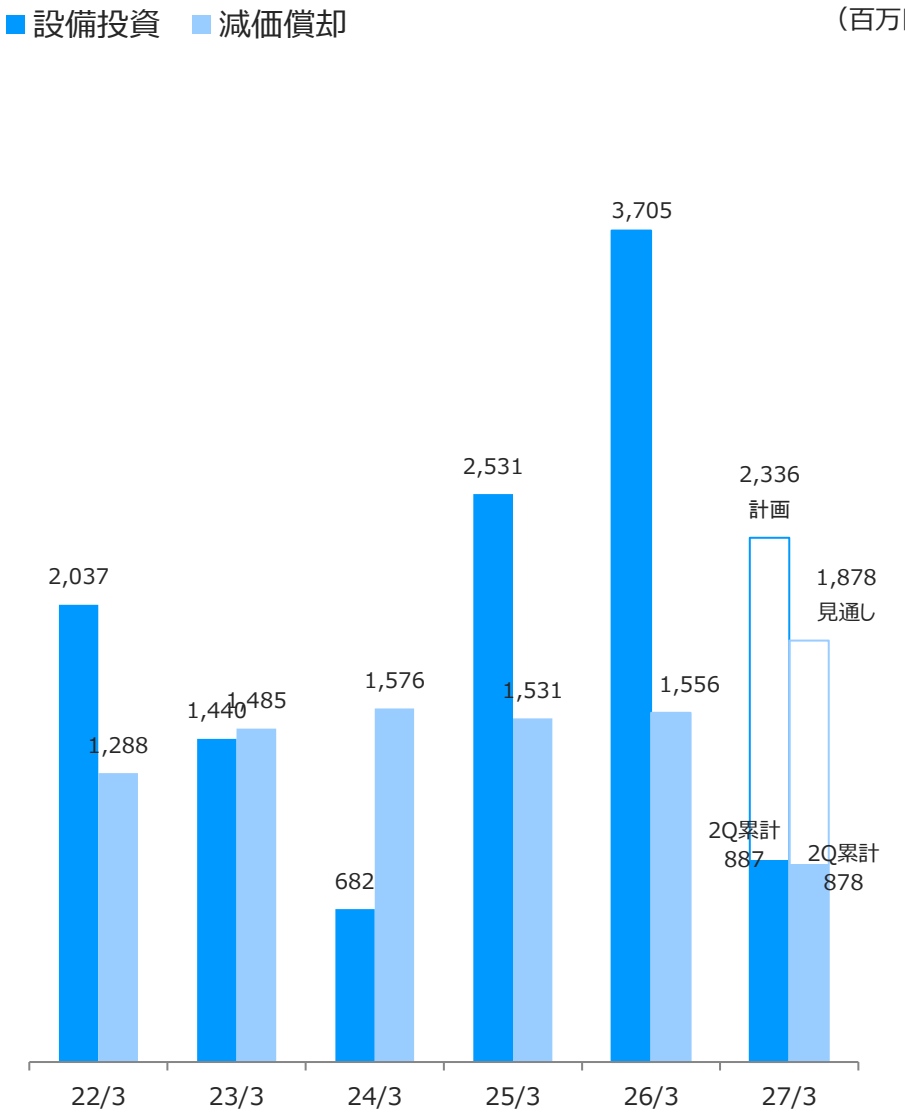
＋ 自動車・医療向け売上増
＋ シンガポール工場売却による固定費圧縮

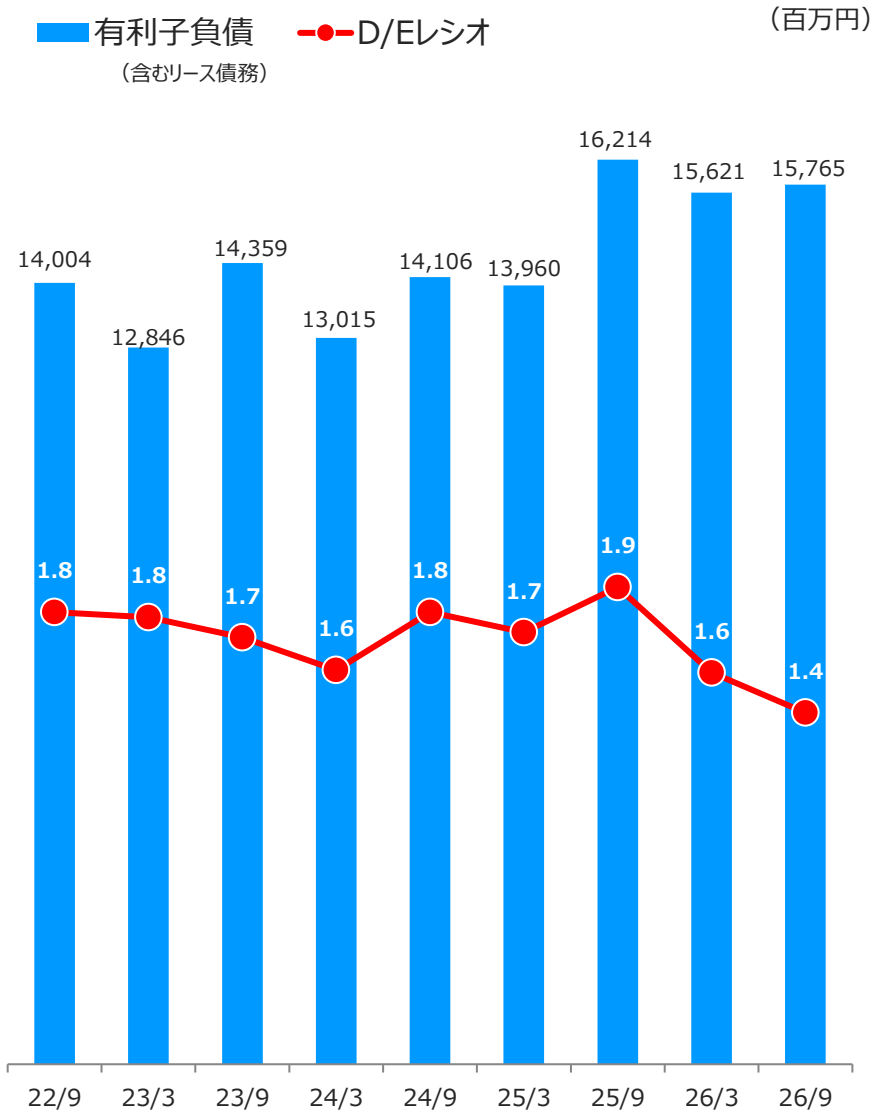
26年3月2Q期レート： 1 US$＝146.6円
27年3月2Q期レート： 1 US$＝160.0円 2026年3月-2026年9月毎月月末TTMレートの平均

2．　連結市場別売上高

(市場別)	26/3期2Q累計 (4-9月)	構成比	27/3期2Q累計 (4-9月)	構成比	増減額	増減率
						(百万円)
自動車(輸送機器)	7,198	49.5%	7,664	48.1%	466	6.5%
医療機器	2,955	20.3%	3,450	21.6%	495	16.8%
ＯＡ機器	1,400	9.6%	1,430	9.0%	30	2.1%
航空機器	697	4.8%	1,036	6.5%	339	48.6%
精密機器	535	3.7%	556	3.5%	21	3.9%
インフラ・住設	408	2.8%	349	2.2%	△59	△14.5%
AV・家電	316	2.2%	310	1.9%	△6	△1.9%
情報通信機器	188	1.3%	195	1.2%	7	3.7%
その他	840	5.8%	951	6.0%	111	13.2%
合計	14,537	100.0%	15,941	100.0%	1,404	9.7%
(規格品)						
コイルスレッド	821	5.6%	1,204	7.6%	383	46.7%

2. 設備投資・減価償却・有利子負債





1. オープニング

2. 2027年3月期第２四半期 連結業績概要

3. 2027年3月期 連結業績予想

4. 中期経営計画

- 4-1. 進捗状況
- 4-2. 注力市場（医療、航空機）
- 4-3. 構造改革

5. トピックス、まとめ

3. 2027年3月期通期業績予想

期初から変更なし

（百万円）

	2026年3月期	2027年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	29,679	30,000	+321	+1.1%
営業利益	1,322	1,500	+178	+13.4%
営業利益率	4.5%	5.0%	-	-
経常利益	1,343	1,200	△143	△10.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,027	2,000*	+973	+94.6

＊シンガポール工場の売却益他含む

（円）

一株あたり配当	35	50	+15	+42.9%

為替レートの前提は1US$150.0円

1. オープニング

2. 2027年3月期第２四半期 連結業績概要

3. 2027年3月期 連結業績予想

4. 中期経営計画

- 4-1. 進捗状況
- 4-2. 注力市場（医療、航空機）
- 4-3. 構造改革

5. トピックス、まとめ

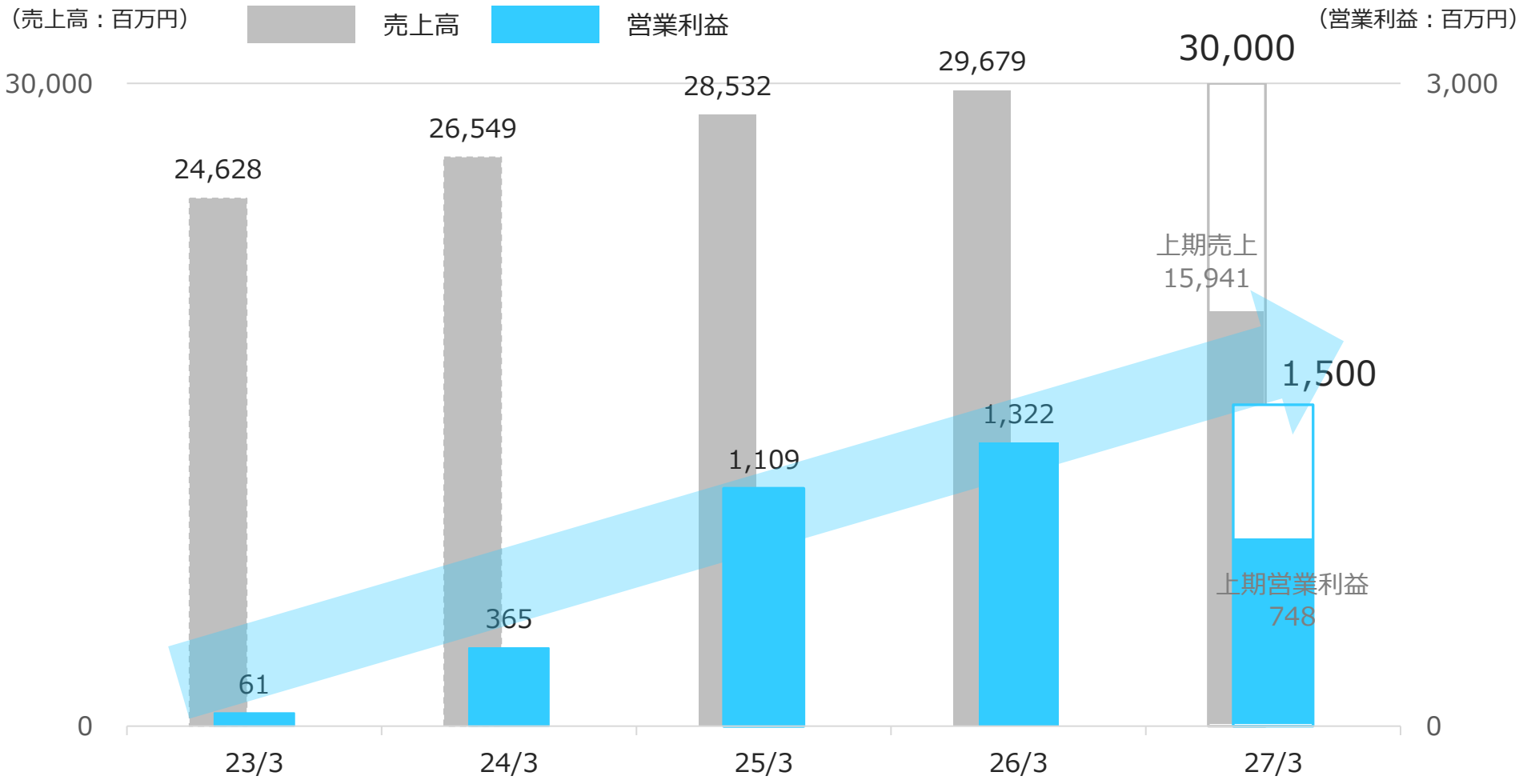
21/4期-24/3期 Phase1 | 24/4期-27/3期 中期経営計画 Phase2 | 27/4期- Phase3

飛躍に向けて手を打つ

- グローバル連携・団結の強化
- 注力市場への経営資源投下
- 構造改革の実行

	26/3期 実績	27/3期 業績予想 26.5.15公表	27/3期 中計KPI 24.5.23公表 本格的な飛躍
売上高	29,679	30,000	29,000
医療売上	6,038		6,000
コイルスレッド売上	2,228		3,000
営業利益	1,322	1,500	1,500
有利子負債	15,621		9,000以下
自己資本比率	31.1%		30%以上
ROE	11.3		7.0%以上
配当（1株あたり）	35円	50円	50円

進捗率は売上53%、営業利益50%



＊2024年5月に公表した中計目標は売上高290億円・営業利益15億円だったが、2026年5月公表の業績予想は売上高300億円・営業利益15億円

4-1. 進捗状況：重点テーマ進捗評価

想定外の要因で厳しい項目もあるが、医療は大幅に過達

(億円)

中期経営計画 重点テーマ	27/3期 目標	24/3期 実績	26/3期 実績	27/3期 上期実績	進捗 評価	コメント
医療拡大	売上 60	41	60	進捗率58% 35	◎	目標だった60億円は前期達成。 今期は70億円を目指す
ｺｲﾙｽﾚｯﾄﾞ (航空機向け) 拡大	売上 30	19	22	進捗率40% 12	△	目標の30億円は難しいが、 B社復調などにより右肩上がり
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ子会社 ﾌﾞﾚｲｸｲｰﾌﾞﾝ	営利 ±0	△3.2	△2.0	△0.8	○	工場売却は26年8月に完了。 黒字化に目途
ﾒｷｼｺ子会社 ﾌﾞﾚｲｸｲｰﾌﾞﾝ	営利 ±0	△6.3	△3.7	△1.9	△	ペソ高で手取りが目減り （仮に中計策定時想定レートであれば黒字） 黒字化の準備は整う

4-2. 注力市場：医療・航空機向け売上推移

医療向け売上推移

中計目標60億円は前期前倒しで達成
今期は70億円を目指す









ﾄﾞﾗｲﾊﾟｳﾀﾞｰ用ばね　　ｵｰﾄﾄﾝｼﾞｪｸﾀｰ用ばね

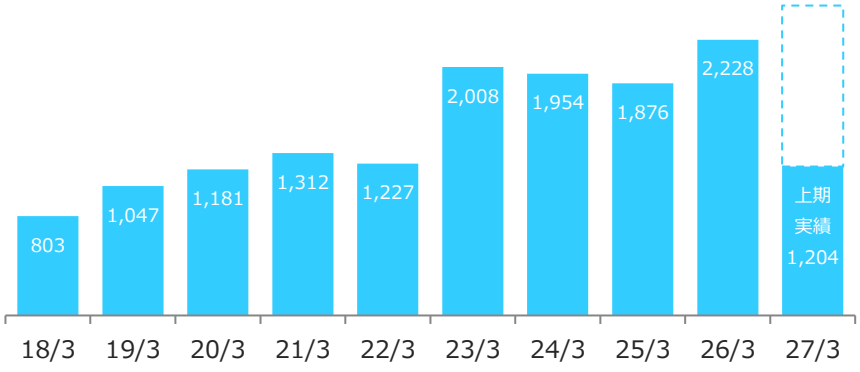
航空機向け（ｺｲﾙｽﾚｯﾄﾞ）売上推移

中計目標30億円は難しいが
前期を上回る見通し





コイルスレッド



医療・航空機向けの特徴

① ライフサイクルが長い

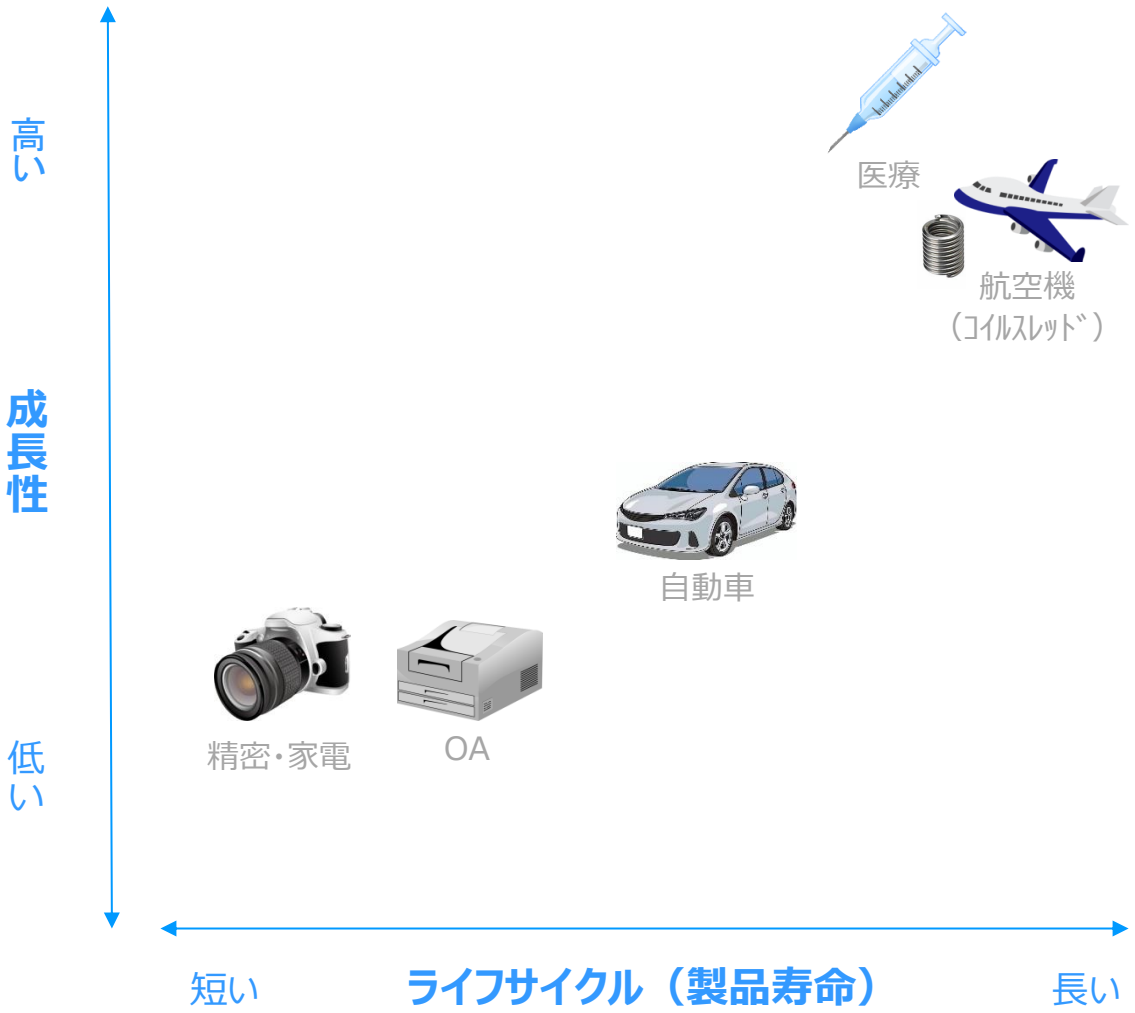
② 成長市場

③ 参入障壁が高い

⇒ 「ストック型*」的のビジネスモデル

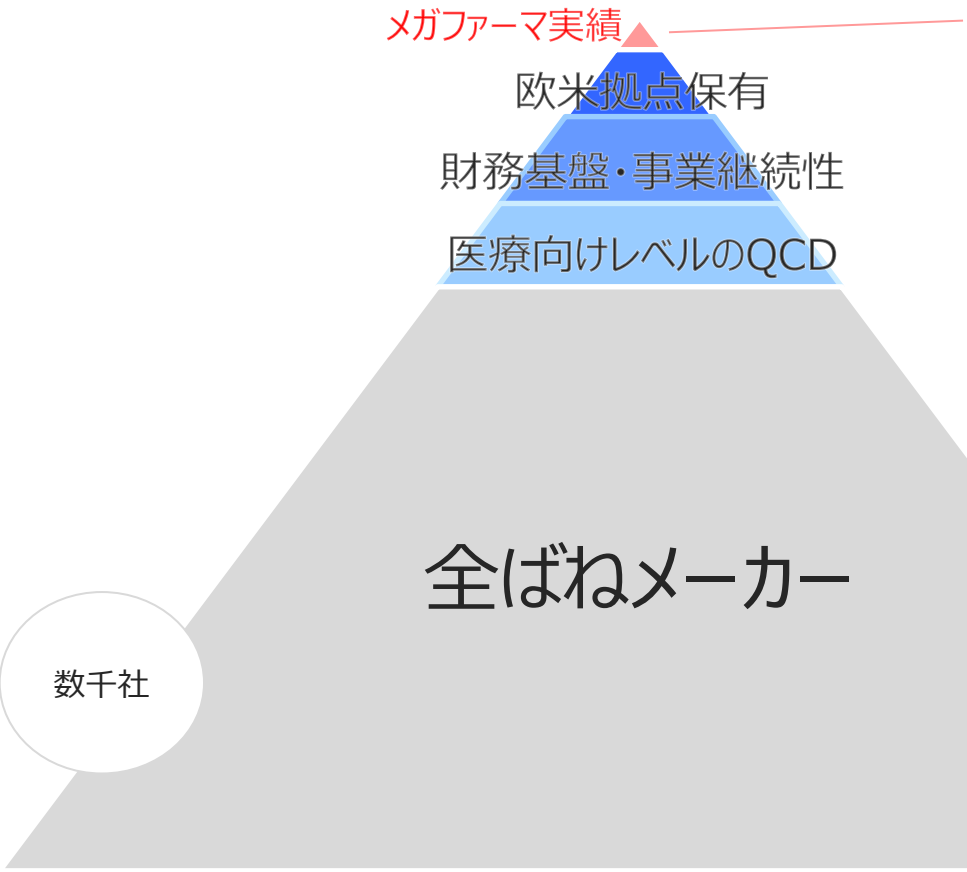
*ストック型：サブスクや定期購入など積上げられた収益源から継続的に利益が生まれるビジネス。反意語はフロー型で小売業、単発の受注生産など

ライフサイクル・成長性・参入障壁において医療・航空機は突出





参入障壁が高い＝レッドオーシャン化しない



メガファーマ向けばねサプライヤーは当社と欧州と北米の老舗数社に限られる

＜メガファーマ向けばねメーカーの条件＞

- メガファーマの認定と納入実績
- 欧州および北米にまたがる複数生産拠点
- 財務/事業継続性/業歴/規模
- 長い準備期間や企画中止リスクへの耐性
  - 試作納入から量産まで約10年程度を要す
  - エンドユーザー医薬品の承認が下りず途中で無くなることもある
- 医療向け品質認証（ISO13485）
- QCD（Quality, Cost, Delivery）

構造的に今後の需要と供給の拡大は確実

マクロ/需要

マーケット・ニーズetc.

- ✓高齢化・疾病者増加
- ✓医療費・負担抑制
  - 医師・看護師不足/医療工数削減
- ✓自宅投与のニーズ
  - 通院負担軽減

ミクロ/供給

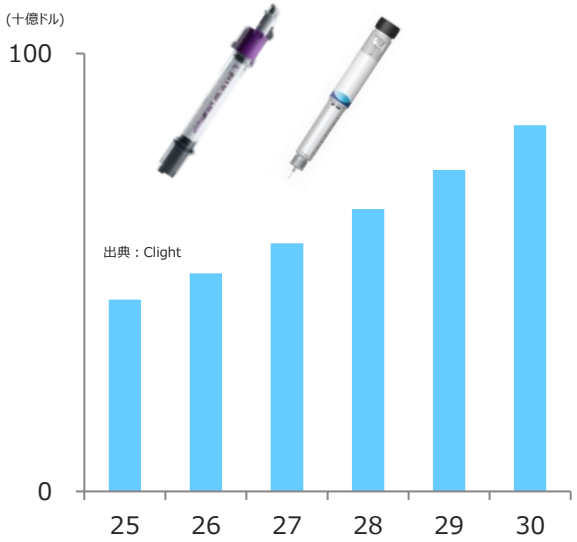
デバイス進化etc.

- ✓デバイス性能（利便・簡便性）向上
  - ボタン押すだけ/吸うだけ/貼るだけ
- ✓恐怖心の軽減
  - 針が見えない/痛みが少ない
- ✓ラインナップ拡充
  - ドライパウダー/ソフトミスト
  - 単発オートインジェクター/複数回オートインジェクター

4-2. 注力市場：医療の主要デバイス

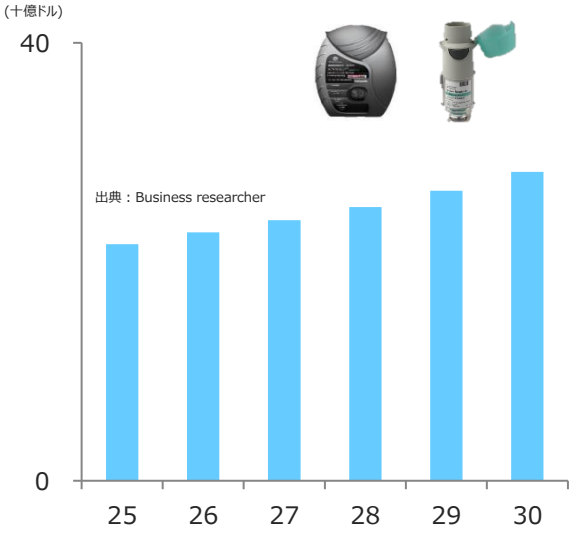
主要3デバイスは成長が続く

オートインジェクター市場
年平均成長率
14%



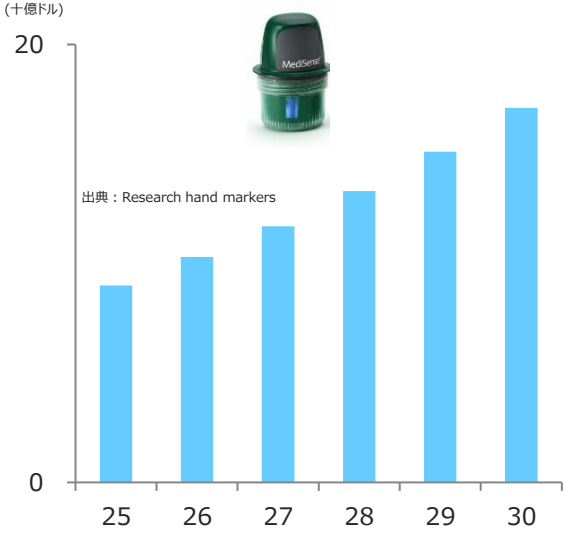
- GLP-1の認知/普及/拡大
- 肥満症/糖尿病患者増加
- 在宅投与のニーズ

インヘイラー市場
年平均成長率
5%



- 喘息/COPD患者増加
- ラインナップ拡充
  -ガス/パウダー/ソフトミスト
- 世界的な高齢化

CGM*市場
年平均成長率
14%



- 糖尿業患者増加
- フルタイムモニタリングのニーズ
- 採血不要

*CGM：Continuous Glucose Monitoring。体に装着したセンサーで皮下の間質液中のグルコース濃度を測定しスマホなどに送信するデバイス

4-2. 注力市場：主要3デバイス向けの既存・新製品状況

欧州・北米中心に新規受注・引き合い旺盛

主要3デバイスの工場別状況

	オートインジェクター		インヘイラー			CGM*
	 1回使い切り	 複数回	 ガス	 ドライパウダー	 ソフトミスト	 CGMセンサー
アメリカ工場	・GLP1系引き続き右肩上がり ・皮膚病系量産中 ・複数回GLP1量産準備中		・ドライパウダー量産中			・有力2社から引き合い
イギリス工場	・皮膚病向け量産準備中 ・複数回GLP1量産準備中		・ガス増産中 ・ドライパウダーをチェコ工場へ生産移管			・量産中。今後右肩上がり
チェコ工場	・GLP1系今期Q4量産開始予定		・ドライパウダー量産中 ・ソフトミスト量産準備中			-
他エリア	・中国・インドでも引き合い		・ドライパウダー中国・インドでも引き合い ・ソフトミスト中国量産準備中			-

*CGM：Continuous Glucose Monitoring。体に装着したセンサーで皮下の間質液中のグルコース濃度を測定しスマホなどに送信するデバイス

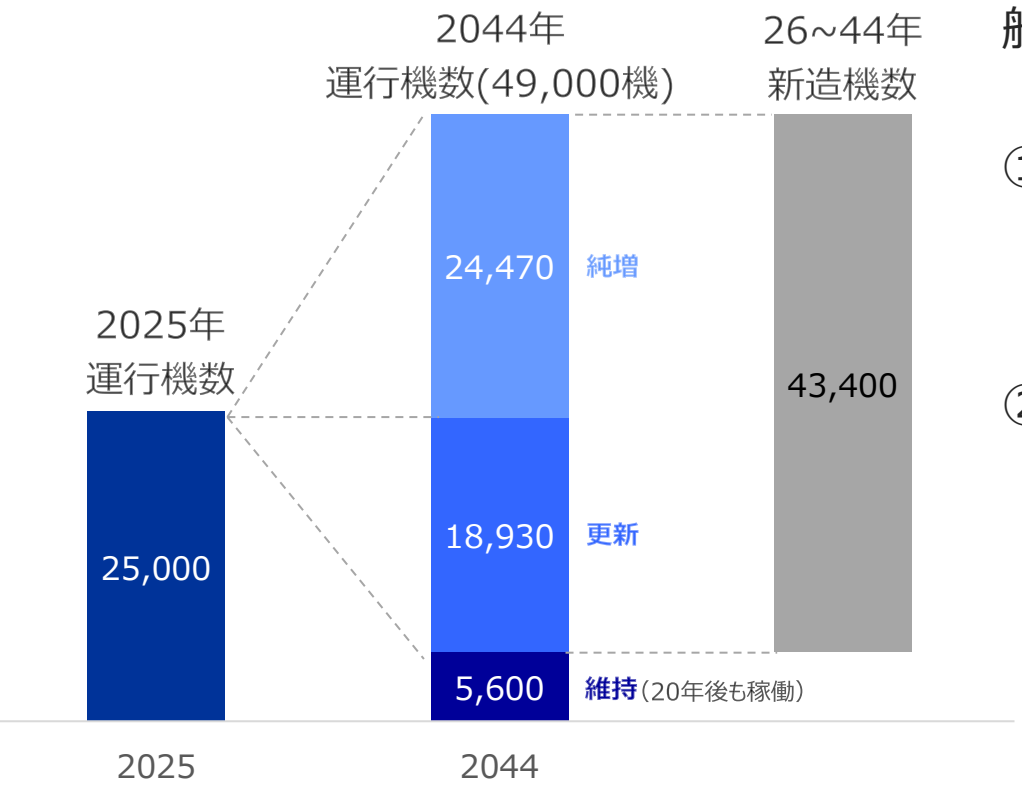
4-2. 注力市場：航空機市場の見通し

特にMRO*向けはストック型

母数である運行機数が増えるほど定期整備用コイルスレッドの注文が増える



コイルスレッド



航空機コイルスレッド需要（年間）

① 新造機向け需要

約2300機×1機あたり使用数

(26~44年、年平均製造機数。43,400÷19(年)=2,284)

② MRO向け需要

25,000機→49,000機×整備頻度×交換率



*MRO：Maintenance・Repair・Overhaulの略。航空機は数か月単位(Aチェック)から数年単位(Dチェック)の定期補修点検を行い、コイルスレッドはそれぞれの補修箇所で取り換えられると推測される

航空機市場は参入障壁が相当高い

＜航空業界コイルスレッドサプライヤーtop３＞

業界順位	本国	歴史・特徴
1st	ドイツ	創業19世紀 航空機向け供給は1938年 業界標準ブランド
2nd	アメリカ	1970年代から供給 コイルスレッド以外にも幅広くラインナップ
3rd (当社)	日本	1970年代から供給 作業効率の高いTangless*を最初に開発。品質面で定評あり

① 実績・信頼の蓄積
- ・数十年にわたる納入実績
- ・何百万飛行時間の実績



② 切り替えコストの壁
- ・新規代替品の実証実験のコスト・時間
- ・切り替えによる事故発生リスク
- ・上記に似合う切り替えメリット創出の難易度

既存品（当社製など）よりも
安価・高品質であっても
切り替えは難しい

*Tangless: 通常のコイルスレッドはTangと呼ばれるノッチが付いており、ねじ穴に挿入後これを折り取るが、Tanglessは専用工具で挿入するだけでTangを折り取る作業が無く作業時間が1/5程度に短縮できる。

4-3. 構造改革：メキシコ工場

メキシコはブルーオーシャン。ペソ高で遅れているが黒字化の目途はついた

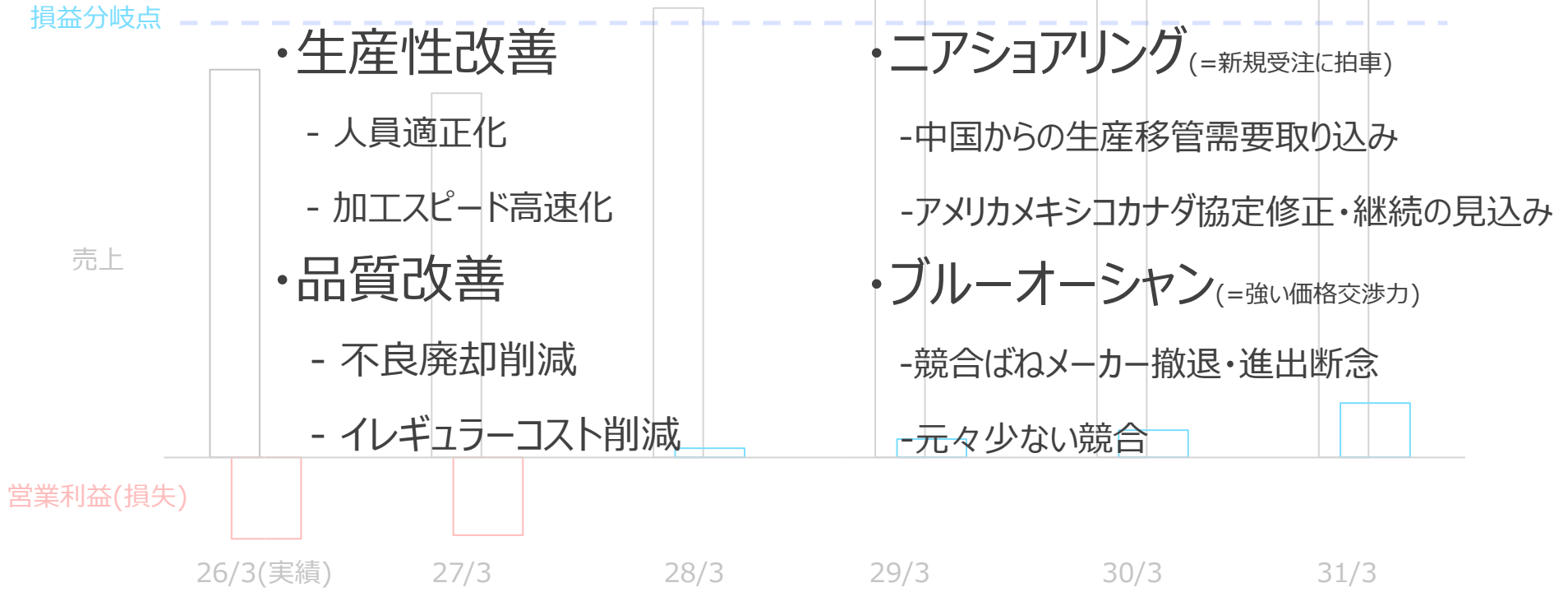
顧客の中国からメキシコへの生産移管などにより新規受注は旺盛。それら量産移行後のブレイクイーブンは確実

収益改善フェイズ(~28/3)

- 新規受注活動
  - 受注から量産まで3年程度
- 生産性改善
  - 人員適正化
  - 加工スピード高速化
- 品質改善
  - 不良廃却削減
  - イレギュラーコスト削減

利益成長フェイズ(29/3~)

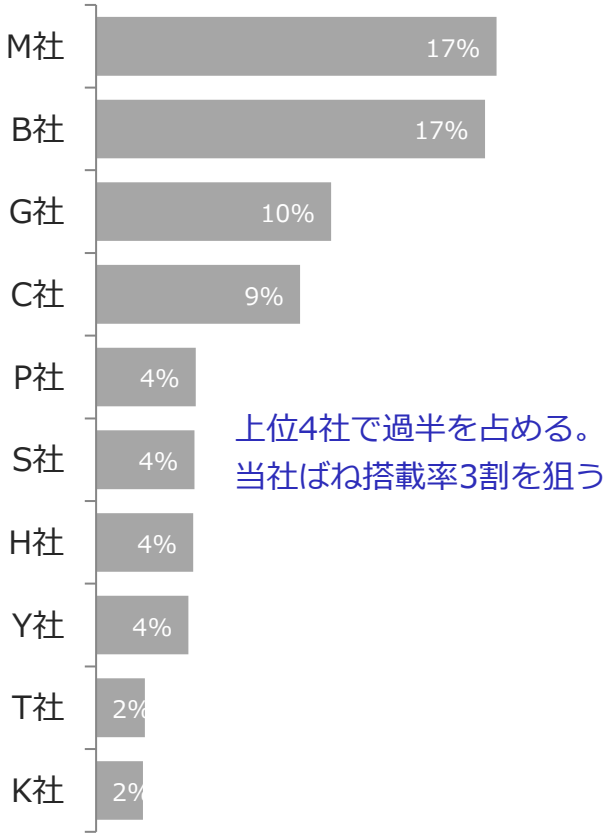
- 新規受注品の量産移行
  - 損益分岐点突破
- ニアショアリング(=新規受注に拍車)
  - 中国からの生産移管需要取り込み
  - アメリカメキシコカナダ協定修正・継続の見込み
- ブルーオーシャン(=強い価格交渉力)
  - 競合ばねメーカー撤退・進出断念
  - 元々少ない競合



タイヤセンサーばね、年間8億個以上の潜在需要

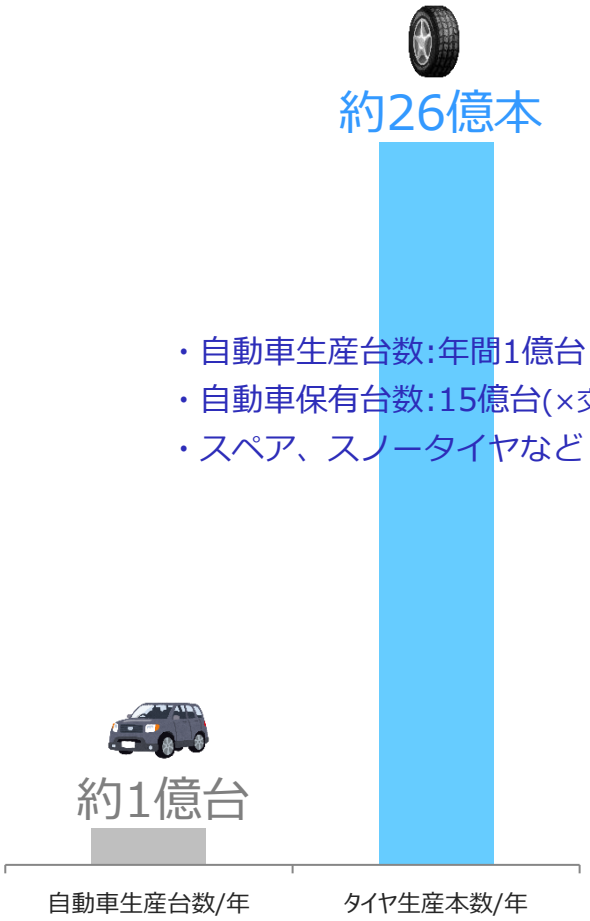
ばね用途はタイヤのトレーサビリティ管理用RFIDの耐衝撃性と電波到達性向上。膨大な潜在需要、今後に期待

世界タイヤメーカーシェアtop10



上位4社で過半を占める。
当社ばね搭載率3割を狙う

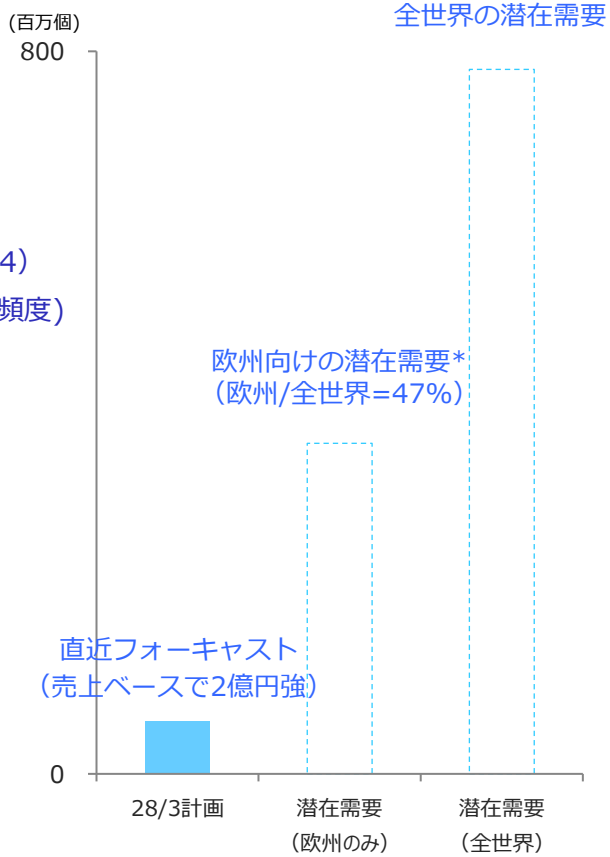
タイヤ年間生産本数



・自動車生産台数:年間1億台（×4）
・自動車保有台数:15億台(×交換頻度)
・スペア、スノータイヤなど

タイヤセンサーばね潜在需要数

（将来的な当社ばね搭載率を3割と仮定）



*欧州ではタイヤのトレーサビリティ管理（Digital Product Passport（DPP：デジタル製品パスポート））が義務化されていくことから、欧州向けはRFID搭載タイヤが増加

5. トピックス：その他

- 東南アジア・インドと中国で明暗
  - ベトナムはOA顧客が中国・タイから生産を移管したことで売上急増中
  - タイは生産性・品質改善に注力し収益性が向上
  - インドネシア・インドも黒字が定着
  - 一方、中国は日系自動車向けが苦戦。データセンターや医療に注力すると共に構造改革を進める

- チェコは初の半期営業利益黒字。今後も医療向け新規案件立上げが続く

- 自動車の「EV」「安全」「快適」関連と、データセンター・光通信向けの新規案件が増加。
  下期以降の売上・収益に貢献

5. まとめ

- 今期について売上高・営業利益の進捗率はおおむね50%。下期は新規案件の立上げや価格見直し・コストダウン効果により上期比増収増益を狙う

- 医療・航空機市場はストック型に近いビジネスモデル。長期的・安定的に収益が積み上がる仕組み

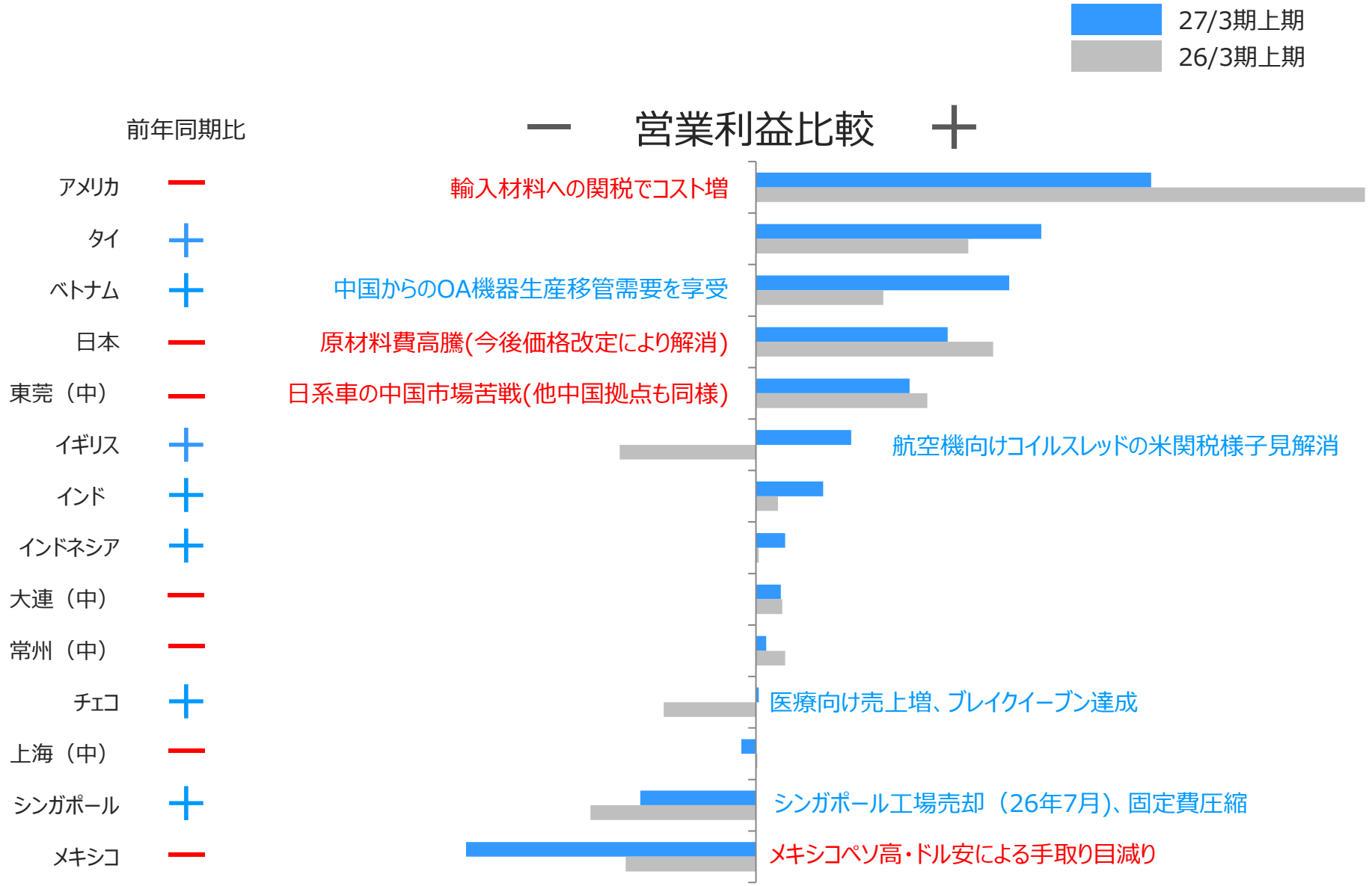
- メキシコの工場オペレーションレベルは当社グループ標準クラス以上に。ペソ高が足を引っ張るが、ニアショアリング＆ブルーオーシャンで引き合い旺盛。売上の拡大により黒字化は確実

- 「飛躍への準備」と位置付けた中期計画Phase2は今期が最終年度
「本格的な飛躍」を掲げる新中期計画Phase3の公表は2027年5月を予定

（お問い合わせ先）

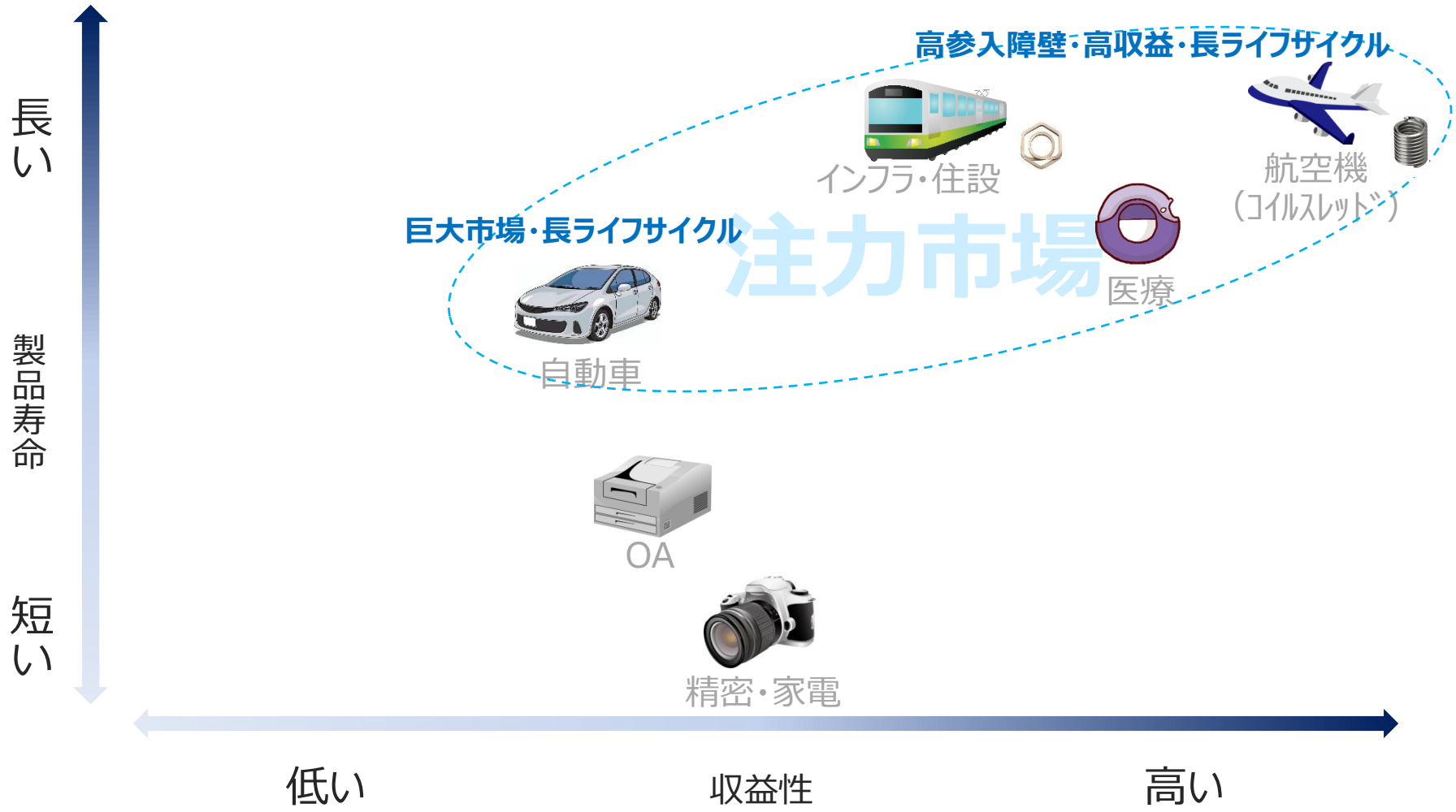
株式会社アドバネクス
経営企画室
TEL　　：03 - 3822 – 5865
Email　：tsutomu_kumaki@advanex.co.jp
URL　　：https//www.advanex.co.jp

（参考）各社別営業利益


27/3期上期
26/3期上期
前年同期比
営業利益比較
アメリカ
タイ
ベトナム
日本
東莞（中）
イギリス
インド
インドネシア
大連（中）
常州（中）
チェコ
上海（中）
シンガポール
メキシコ
輸入材料への関税でコスト増
中国からのOA機器生産移管需要を享受
原材料費高騰(今後価格改定により解消)
日系車の中国市場苦戦(他中国拠点も同様)
航空機向けコイルスレッドの米関税様子見解消
医療向け売上増、ブレイクイーブン達成
シンガポール工場売却（26年7月)、固定費圧縮
メキシコペソ高・ドル安による手取り目減り

（参考）注力市場

注力分野は「医療」「航空機（ｺｲﾙｽﾚｯﾄﾞ）」「自動車」に加え、「インフラ・住設」。
高収益、長ライフサイクルの安定市場に長期戦略をもってグループ連携で取り組む

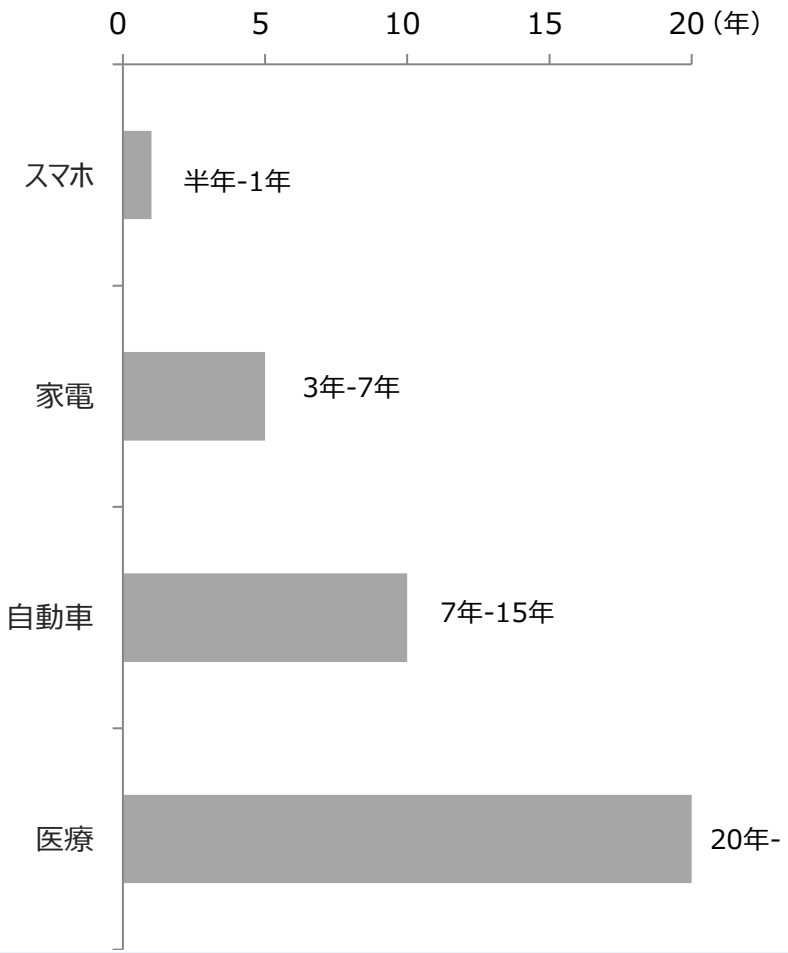


＊医療や自動車は量産開始から生産終了まで10-30年と長い一方、カメラやスマホなどは1-2年と短い。製品寿命が長い方が経営の安定性に有利

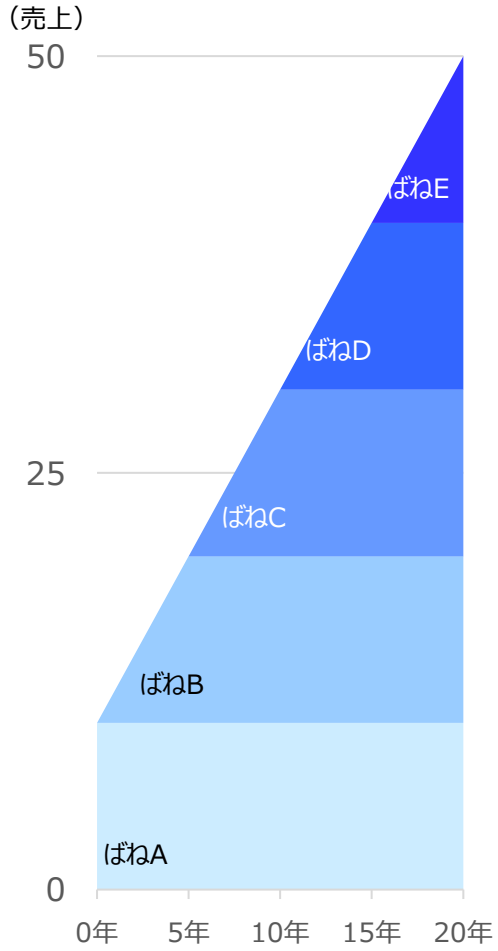
（参考）医療市場の売上積み上がり

ライフサイクルが長い＝売上が積み上がりやすい

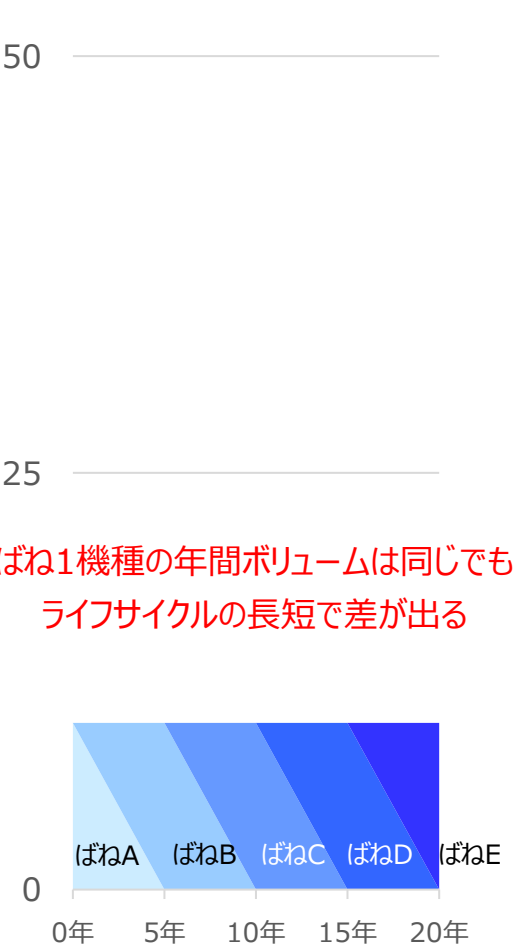
市場別ライフサイクル比較



ライフサイクル20年



ライフサイクル5年



ばね1機種の年間ボリュームは同じでも
ライフサイクルの長短で差が出る

（参考）コイルスレッドとは

コイルスレッドは当社規格品の代表的製品
“ねじ穴の補強”と“ゆるみ止め”の効果で、主に航空機市場にて重宝されている

コイルスレッドと挿入工具



カットサンプル



使用例



コイルスレッドをねじ込んだ
ねじ穴にボルトを締める

コイルスレッド主要市場の航空機



航空機1機あたりのコイルスレッド使用数は10万-30万個

TangedとTangless*



左:一般的なコイルスレッド　右：当社の看板製品のTangless

*Tangless: 通常のコイルスレッドはTangと呼ばれるノッチが付いており、ねじ穴に挿入後これを折り取る作業があるが、Tanglessは専用工具で挿入するだけでTangを折り取る作業が無く作業時間が1/5程度に短縮できる。

（参考）自動車向けの主な用途

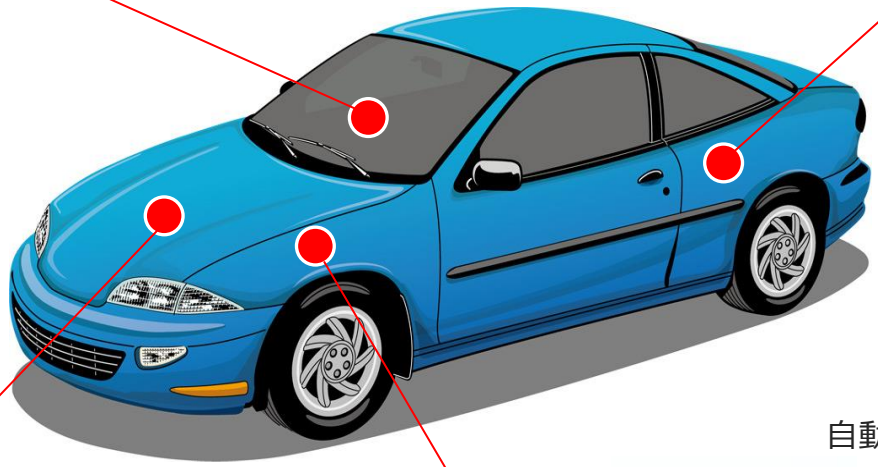
自動車に使用される当社製品の用途は多岐にわたる

内装系

・ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ
・ｴｱﾊﾞｯｸ
・ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ
・温度ｾﾝｻｰ
・ﾚｲﾝｾﾝｻｰ
・車内ﾗﾝﾌﾟなど

駆動系

・ﾊﾞｯﾃﾘｰ
・ﾊﾟﾜｰｺﾝﾄﾛｰﾙﾕﾆｯﾄ
・ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ/ｺﾝﾊﾞｰﾀｰ
・点火ｺｲﾙ
・ｽﾀｰﾀｰﾓｰﾀｰ
・ｸﾗﾝｸｾﾝｻｰ
・ﾎﾟﾝﾌﾟ
・ﾊﾞﾙﾌﾞなど



操作・制御系

・ﾊﾝﾄﾞﾙ
・ﾌﾞﾚｰｷ
・横滑り防止ｾﾝｻｰ
・ｼﾌﾄﾊﾞｲﾜｲﾔ
・ﾀｲﾔなど

外装系

・ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄ
・ｱﾝﾃﾅ
・ﾄﾞｱﾛｯｸ
・ﾎｲｰﾙ
・ﾋﾞｭｰｶﾒﾗ
・ETCｾﾝｻｰなど

自動車向け当社製品


インサートカラー


深絞り


インサートモールド

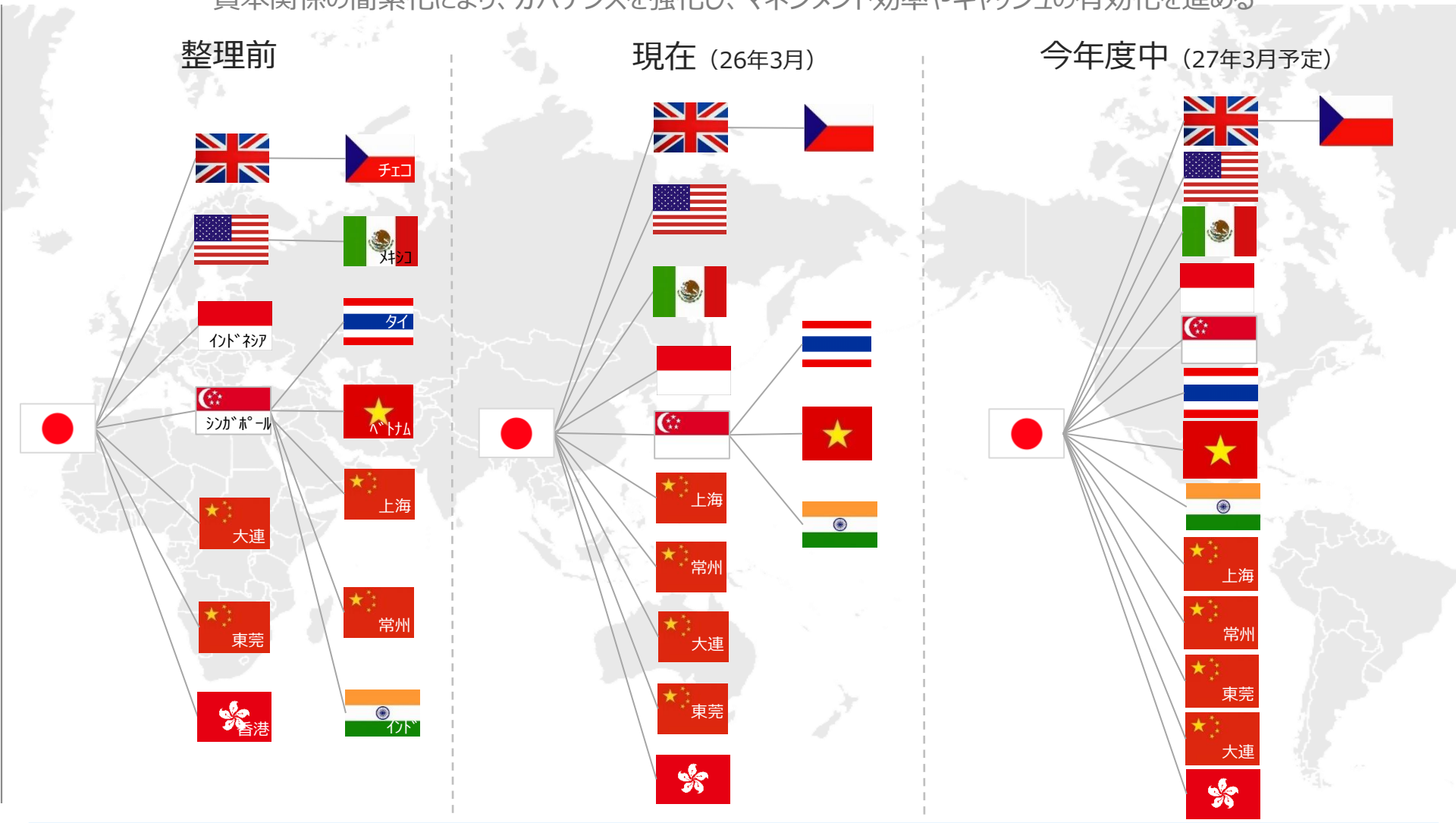

押しばね


トーションばね


板ばね、プレス部品

フラット化で経営効率改善

資本関係の簡素化により、ガバナンスを強化し、マネジメント効率やキャッシュの有効化を進める



〔社名〕
株式会社アドバネクス
（スタンダード市場）

〔設立〕
1946年11月



〔事業内容〕精密ばね製品等の製造・販売

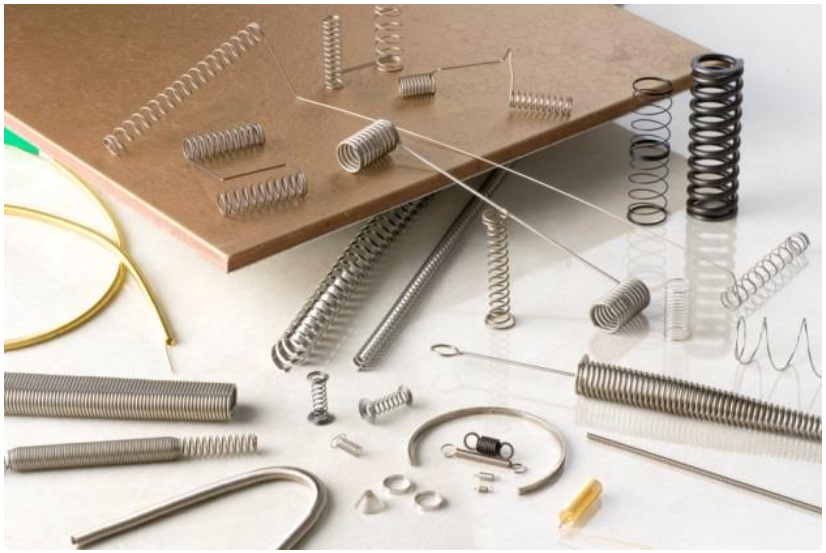
〔従業員数〕1,913名（連結）
363名（単体） ＊2026年3月末時点

〔連結対象子会社〕14社（海外14社） *2026年3月末時点

〔売上〕 296億円 *2026年3月期

板ばね





線ばね



フォーミング加工



インサートモールド



深絞り加工

タングレス・インサート





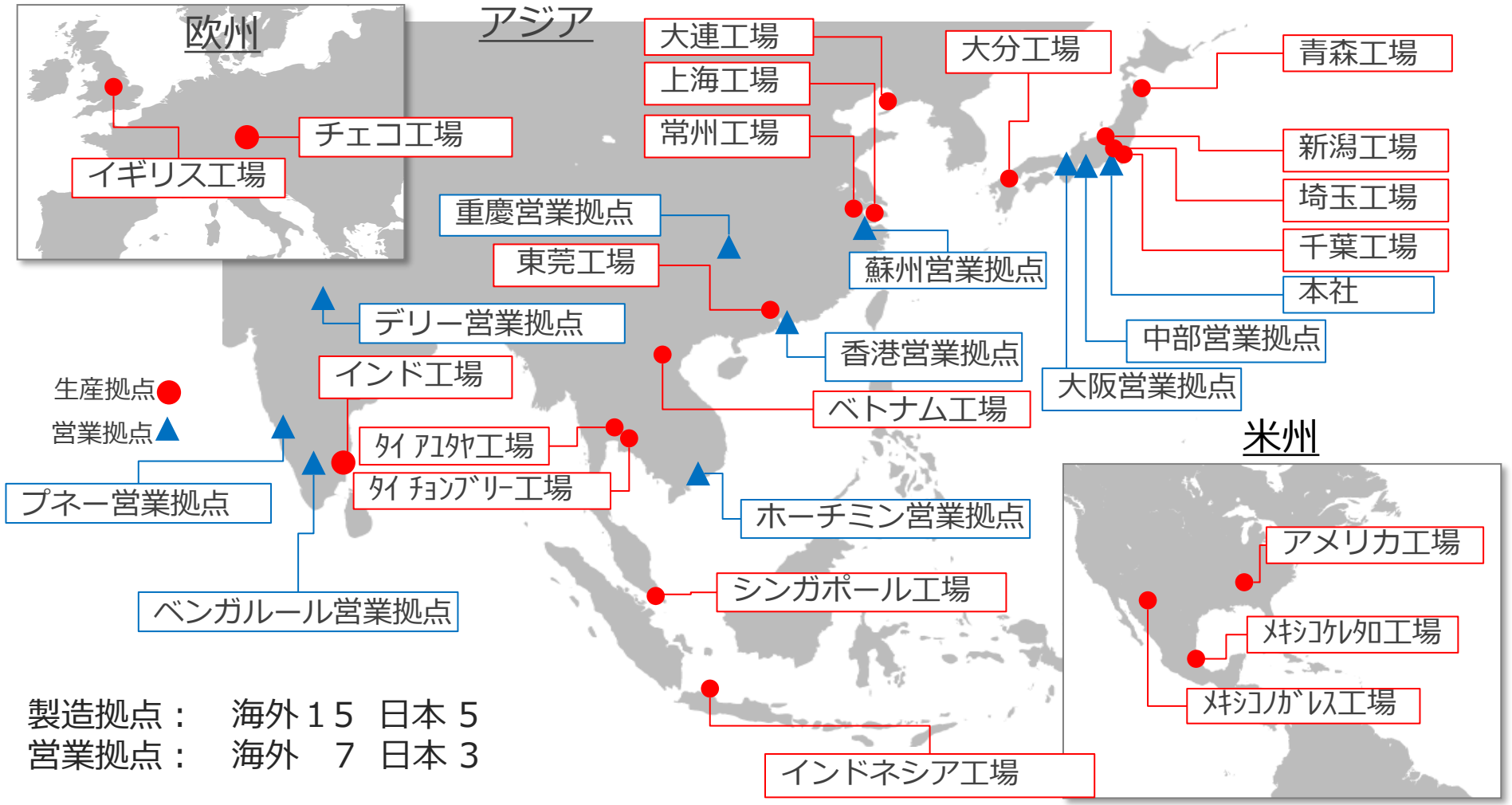
インサートカラー



ロックワン

（参考）国内外拠点

精密ばねメーカーでは最多の海外拠点数



製造拠点：　海外１５　日本 ５
営業拠点：　海外　 ７　日本 ３

（参考）工場外観


新潟工場


埼玉工場


青森工場


大分工場


千葉工場


シンガポール工場


タイアユタヤ工場


タイチョンブリー工場



ベトナム工場


インドネシア工場


インド工場


中国上海工場


中国大連工場


中国常州工場


中国東莞工場


アメリカ工場



メキシコケレタロ工場


メキシコノガレス工場


イギリス工場



チェコ工場

（参考）シェアNo.1製品

1946
設立

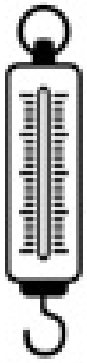
1980s

1990s

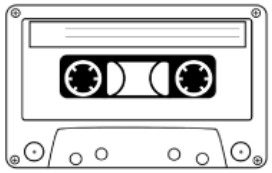
2000s

2010s

2020s



はかりばね
ｼｪｱ90%(国内)



音楽ﾃｰﾌﾟ用
ﾃｰﾌﾟﾊﾟｯﾄﾞ
70%(国内)



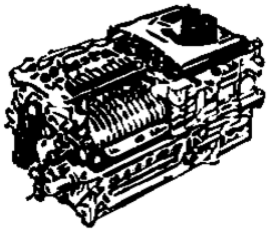
ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸ用
ｼｬｯﾀｰ
80%(世界)



携帯電話用ﾋﾝｼﾞ
50%(世界)



留置針用ばね
60%(国内)



ﾊﾟﾜｰｺﾝﾄﾛｰﾙﾕﾆｯﾄ用
ﾘｰﾄﾞﾌﾚｰﾑ
30%(世界)



ﾋﾞﾃﾞｵﾃｰﾌﾟ用
ﾘｰﾌｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ
50%(世界)



光ﾃﾞｨｽｸ用
ｾﾝﾀｰﾊﾌﾞ
90%(国内)

（参考）沿革

1930年　東京都江戸川区にばね専門工場を創業

1946年　株式会社に改組、資本金を199千円で
「株式会社加藤スプリング製作所」を設立

1964年　東証二部上場

1971年　カトウスプリングUSAをロサンゼルスに設立
（初の海外進出）

1976年　新潟県柏崎市に新潟工場を建設し操業を開始

1978年　カトウスプリング・シンガポールを設立
（初の海外生産拠点）

2001年　株式会社アドバネクスに社名を変更

2004年　東証一部に昇格

2014年　船橋電子株式会社を子会社化

2015年　埼玉工場開設

2022年　スタンダード市場に移行



1957年頃の作業風景

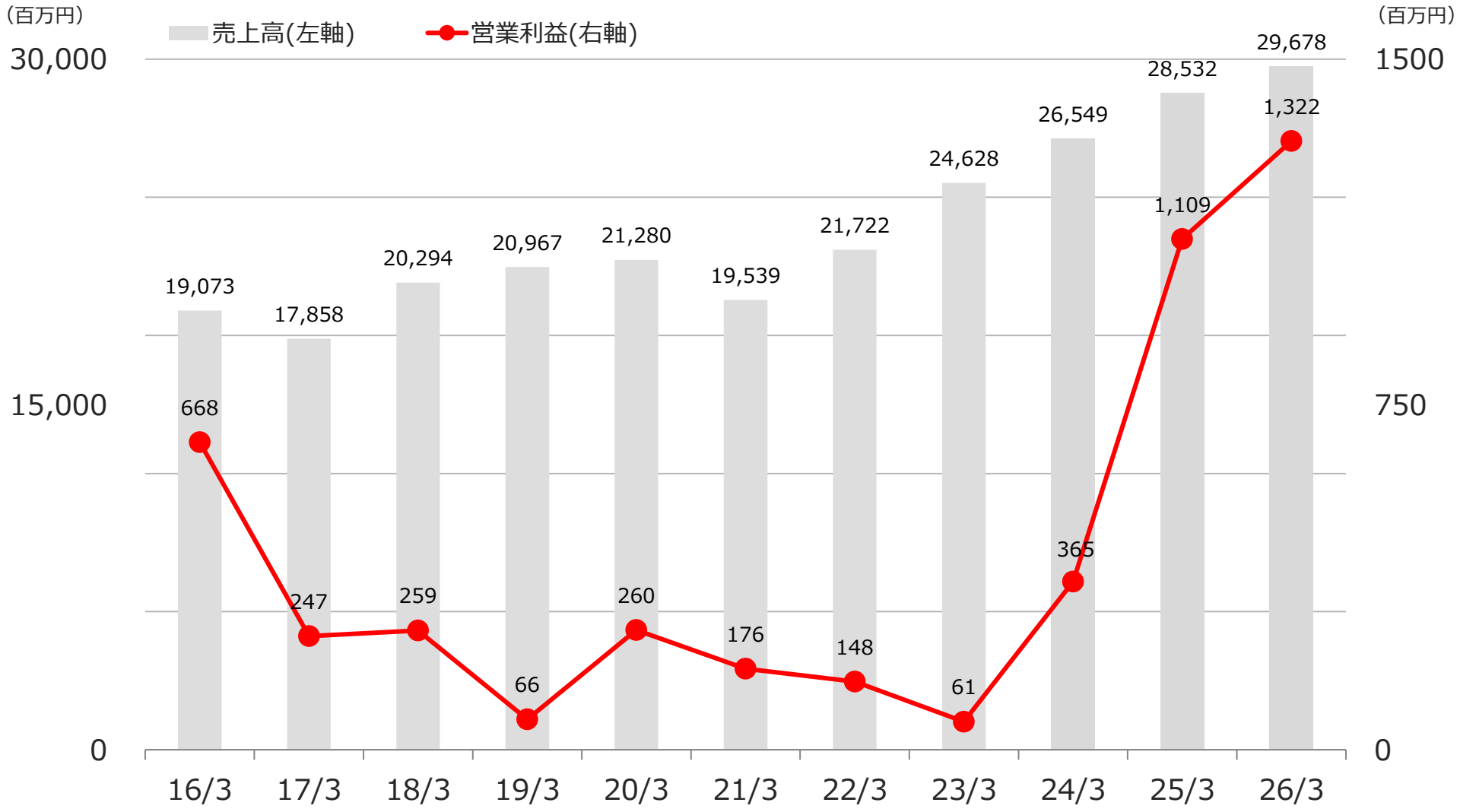


新潟工場



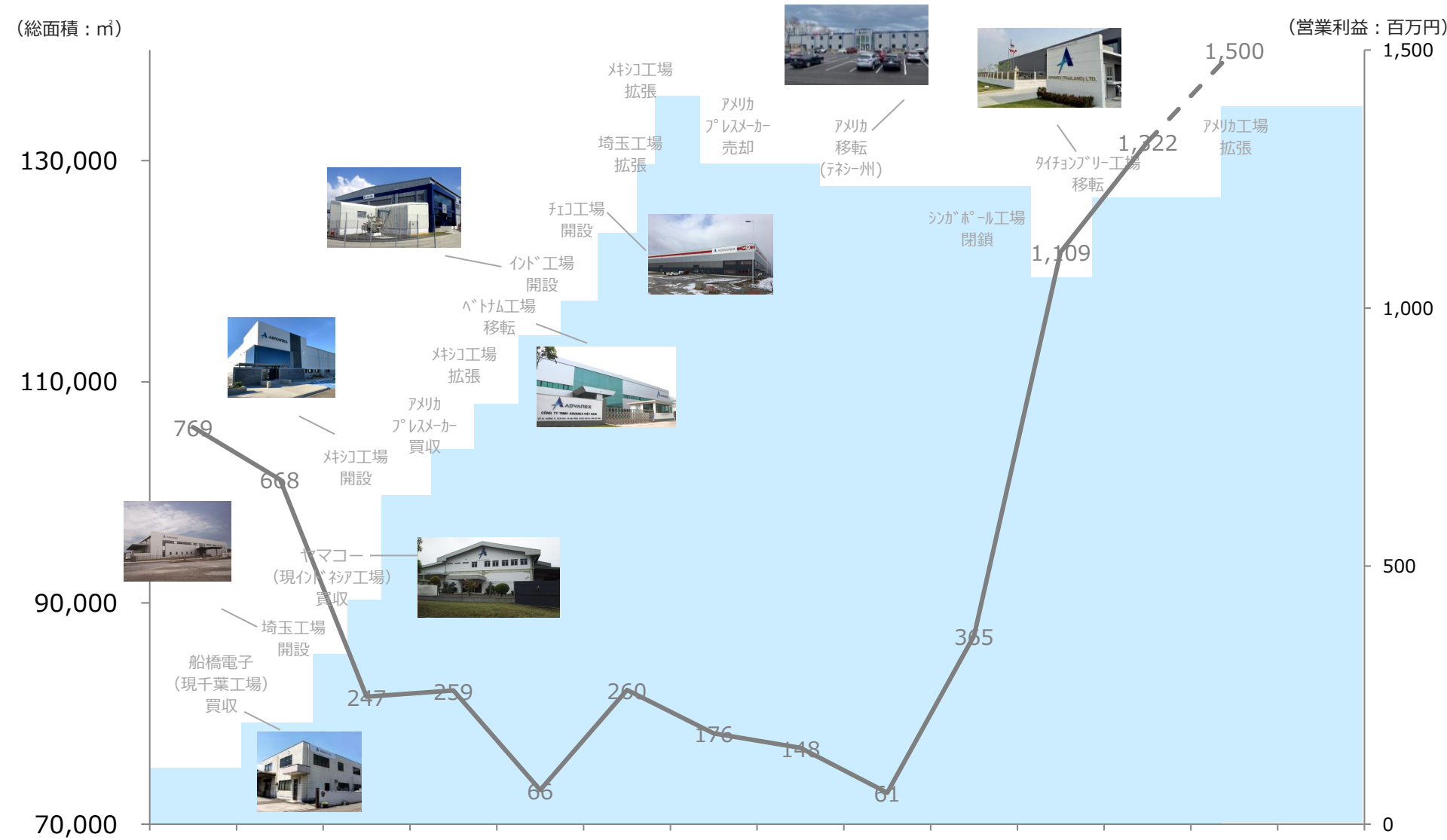
埼玉工場

（参考）連結業績推移


（百万円）
売上高(左軸)
営業利益(右軸)
（百万円）
30,000
15,000
0
1500
750
0
19,073
17,858
20,294
20,967
21,280
19,539
21,722
24,628
26,549
28,532
29,678
668
247
259
66
260
176
148
61
365
1,109
1,322
16/3
17/3
18/3
19/3
20/3
21/3
22/3
23/3
24/3
25/3
26/3

（参考）工場面積推移と営業利益

“筋肉質”に変換し、収益力を強化していく



(参考)業績推移

(百万円)		2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
連結	売上高	19,539	21,722	24,628	26,549	28,532	29,679
	営業利益	176	148	61	365	1,109	1,322
	経常利益	359	354	585	832	170	1,343
	当期純利益	633	17	60	268	△628	1,027
日本	売上高	8,061	8,593	8,592	8,867	9,095	9,203
	セグメント利益	115	273	165	113	222	255
米州	売上高	2,188	2,536	2,904	4,231	5,410	6,014
	セグメント利益	△527	△611	△1,041	△455	192	276
欧州	売上高	1,936	2,046	2,939	3,111	3,399	3,543
	セグメント利益	179	52	375	230	150	80
アジア	売上高	7,352	8,545	10,192	10,339	10,627	10,918
	セグメント利益	410	442	541	464	544	700
市場別売上高	自動車	9,835	11,481	12,868	14,599	14,463	14,493
	医療機器	1,775	2,234	3,182	4,131	5,365	6,038
	ＯＡ機器	2,400	2,373	2,647	2,330	2,840	2,749
	航空機器	712	691	1,068	1,682	1,743	1,858
	精密機器	1,069	901	881	799	927	1,067
	インフラ・住設	575	825	647	691	690	690
	AV・家電	586	621	611	552	560	622
	情報通信機器	661	676	390	378	444	388
	その他	1,926	1,920	2,334	1,387	1,500	1,696